教学研究紀要

佛教文化論集

第五輯

川崎大師教学研究所編

川崎大師教学研究所

所長　高橋隆天（平間寺貫首）
参与　茂木隆応（平間寺院代）
同　馬本克美（平間寺総務）
同　原　隆恩（平間寺執綱）
同　野沢隆幸（平間寺執事）
同　小林俊一（平間寺常務）
同　滝沢　譲（平間寺顧問）
教授　牧尾良海（文学博士　大正大学名誉教授）
同　佐藤隆賢（大正大学教授）
同　斎藤昭俊（大正大学教授）
同　布施浄慧（大正大学講師）
同　今枝二郎（大正大学教授）
同　吉田宏哲（大正大学教授）
同　福田亮成（大正大学助教授）
同　遠藤祐純（大正大学助教授）
幹事　寺田隆明（平間寺東京別院　薬研堀不動院主管）
同　種村能謙（平間寺教務部　教務課課長）
同　藤田隆乗（平間寺総務部　文書課主任）
研究員　苫米地誠一

昭和六十三年九月二十一日　発刊
川崎大師教学研究所研究紀要
佛教文化論集（第五輯）

©
編集　川崎大師教学研究所
代表　高橋隆天
発行　大本山川崎大師平間寺
〒210　川崎市川崎区大師町四番四八号
電話　〇四四（266）三四二〇番
振替　東京五一三九八番
印刷　株式会社　共立社印刷所
〒101　東京都千代田区神田神保町三丁目一〇番
春山宇平

刊行の辞

大本山川崎大師平間寺貫首
川崎大師教学研究所所長
高橋隆天

川崎大師教学研究所が、弘法大師ご誕生一千二百年讃仰記念事業として昭和四十七年に設立されてから十六年になるが、その間、同研究所の編纂になる教学研究紀要「佛教文化論集」の刊行は、すでに四輯に及んでいる。

そして、さらに今回、当山開創八百六十年（昭和六十二年）の佳年を慶讃して、ここにその第五輯が発刊の運びをみるに至ったことは、まことに意義深く、ご同慶に堪えない次第である。

この開創八百六十年を記念して、当教学研究所の教授諸師を中心に、わたくしを団長として結成された「中国佛教文化研修・第四次川崎大師友好訪中団」は、昨年十月二十七日成田出発から十一月六日羽田帰着までの十一日間の日程で、北京・西安・蘭州・敦煌・上海の各地にわたって、中国仏教文化に対する貴重な研修と中国佛教関係者との親善友好を通して所期の目的を達成し得たことは、非常にありがたいことであった。（詳細については、「川崎大師だより」第三二三号・特集参照）

訪中団は、その折、北京の広済寺に本部を置く「中国佛教協会」（一九五三年設立）を表敬訪問し、さらに中国における初めての仏教文化専門研究機関として、一九八七年四月に新たに設立された「中国佛教文化研究所」（名誉所長・趙樸初先生）を訪問することができた。そして、初代所長・周紹良先生に親しくお会いし、同研究所の設立に心からの祝意を表して、「弘法大師空海全集」（全八巻）、「弘法大師と現代」（真言宗智山派御遠忌記念出版）、「佛教文化論集」（第一輯から第四輯まで）、「密教学研究」その他の仏教関係の図書を贈呈した。

この中国佛教文化研究所は、仏教の教理のほか、仏教の文化遺産に関する研究、さらには外国の仏教界や仏教関係団体との学術文化交流についてきわめて大きな意欲と関心を示しているので、今後当山の教学研究所と北京の中国佛教文化研究所との間に果されるべき仏教学術文化研究交流の役割は甚だ大なるものがあると確信する。

学術文化研究の交流といえば、大正大学とアメリカのハワイ大学との間には、まことに理想的な友好関係が結ばれていて、両大学の教授陣の相互交流が常に行われているほか、ハワイ大学で開催される夏期研修講座には、学生諸君も学生寮に合宿して積極的に参加している。なお、当教学研究所の藤田隆乗研究員も、昭和六十二年九月から二ヵ年間、真言宗智山派海外留学生となり、同大学の宗教学研究室に籍を置いて研修に精進している。

わたくしは、過般ハワイ大学を訪問し、莫大な数の蔵書を擁する同大学図書館を参観する機会を得た。そして仏教学術文化の研究に資するため、当教学研究所編纂の「佛教文化論集」の既刊分を寄贈した。

わたくしは、教学研究所教授各位の努力によって、ここに「佛教文化論集」の第五輯が刊行されることに深く感謝するものである。

この論集が、教授諸師の学究の成果によって今後ますます豊かに結実することを願うとともに、広く斯界のために寄与多きことを祈念して、刊行の辞とする次第である。

昭和六十三年　七月二十一日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

佛教文化論集　第五輯　目次

刊行の辞……高橋隆天……一
『金剛頂瑜伽中略出念誦經』……遠藤祐純　苫米地誠一……一
——六巻本・四巻本對照研究——
弘法大師の法身説法説とその構造……福田亮成……三九
弘法大師入唐期における唐代の諸相……今枝二郎……二七
オラーオーンの宗教……斎藤昭俊……三二
風水思想と科学の間（下）……牧尾良海……四二
大乗起信論　漢英・英漢対照索引……吉田宏哲……1

『金剛頂瑜伽中略出念誦經』六卷本・四卷本對照研究

遠藤祐純
苫米地誠一

はじめに

『金剛頂瑜伽中略出念誦經』四卷は、開元八年（七二〇）に入唐した金剛智三藏（六七一―七四二）によって中國に將來され、開元十一年（七二三）、資聖寺において譯出され、『開元釋敎錄』[1]（卷第九）等に入錄された。この『略出經』四卷本は、弘法大師空海はじめ入唐の諸師によって將來された。現流本がそれである。『略出經』には、四卷本の他に六卷本の存在が知られている。しかし、中國における經錄『開元錄』や『貞元錄』には記錄されていない。こうした點から見て、六卷本は、中國においては、四卷本程用いられず流行されなかったのかとも思われるが、金剛頂經に對する中國成立の唯一の釋である『金剛頂經大瑜伽祕密心地法門義訣』が、六卷略出經に對する釋として成立しているの

である。四巻本に對する釋は遂に見られなかった。こうして見ると、必ずしも六巻略出經が等閑に附されていたとは思えないのである。

この六巻略出經は、入唐八家の中の三師、卽ち、慈覺大師圓仁（八三八―八四七入唐）、[2]安祥寺惠運（八四二―八四七入唐）、[3]禪林寺宗叡（八六二―八六五入唐）等[4]によって將來されたのである。

特に、慈覺大師圓仁は、不空譯『金剛頂一切如來眞實攝大乘現證大敎王經』三巻の前二巻に對する釋『金剛頂大敎王經疏』七巻に、四巻本を舊經と呼び六巻本を別本として兩經を引用している。この『疏』を依用する曇寂（一六七四―一七四三）の『金剛頂大敎王經私記』十九巻には、次のように辯じながら、四巻、六巻と明記して引用されている。卽ち、

因[5]辨。疏四巻經云舊經。六巻稱別本立名不爾。何者今經是結集經。彼傳法人所出故名略出本。非同本異譯。何以新舊分別。故今以四巻六巻。而呼也。

として、兩經の同本異譯、新舊分別を否定している。しかし、『疏』において四巻本を舊經と呼び六巻本を別本というのは、新譯の『三巻敎王經』（不空譯）に對して舊經といい、その別立本としての六巻本が存するとの理解を示したものであろう。

六巻略出經を將來した三師と略々同時代の五大院安然（八四一―九一五）は『諸阿闍梨眞言密敎部類總錄』巻上に

金剛頂瑜伽中略出念誦經六卷金剛智仁錄外[17]

佛說金剛頂瑜伽中略出念誦經一部六卷運與前本少異也

金剛頂瑜伽中略出念誦經四卷　金剛智海珍治六爲四頗有加減

金剛頂瑜伽中略出念誦經四卷叡與前少異也

金剛頂瑜伽中略出念誦法四卷亦云經貞元錄梵釋寺圓覺寺缺注私云上三同經已上六四兩經治定也治六爲四互有加減

と述べ、六卷本を再治して四卷本が成立したとしている。

安然の治六爲四の說、曇寂の非同本異譯の說も六卷本と四卷本の詳細な檢討を必要とするものである。[18]

六卷略出經の存在は、以上の記錄からも知られていたが、長い間、六卷略出經の現存は廣く知られておらず流布もされていなかった。最近、清田寂雲先生によって津市の西來寺藏の『六卷略出經』の存在が紹介された。金剛頂經を研究する上で益するところ大なるものがある。

ここで、われわれも別に、『六卷略出經』の所在を尋ね、以下の諸本を得ることが出來た。

新出『略出經』六卷本紹介

一　乙寶寺藏六卷略出經

乙寶寺（新潟縣北蒲原郡中條町）に『六卷略出經』が二部祕藏されていることが判った。一部は、享保十二、三年（一七二七・八）に城南安樂院沙門法原によって寫された寫本（以下法原本と呼ぶ）であり、他は、明和六年（一七六九）京都上品蓮臺寺第二十四世日鑁による寫本（日鑁本）である。特に、後者は、智積院第四十七世能化瑜伽教如（一八四七―一九二八）の祕藏本で、門外不出であったが、此度び、乙寶寺院代小川義昭師の御好意により寫眞版の惠與に預り、その上、公表の快諾を得たことを報告出來る幸運に惠まれた。記して甚深の謝意を表するものである。

(イ)　法原本

法原本は、六卷のうち五卷・六卷が合本となり、五帖からなっている。一行十七字、十行一頁であ

る。第一卷十八丁・第二卷二十七丁・第三卷二十四丁・第四卷二十八丁・第五卷二十二丁・第六卷十五丁・計百三十四丁である。各卷の外題、內題、尾題、首書、奧書等を擧げる。

○第一卷

（外題）

（內題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法序品第一

（尾題）　瑜伽三摩地經卷第一

（首書）

寫本已下朱書

校前唐院之正本經之前後題及經中文句全同之已下諸卷亦爾

師曰今此六卷本是慈覺大師將來本也卽是師々傳授之本耳

私云此本題初之佛說二字錄中無之而今檢慈大師將來之前唐院正本亦有佛說二字恐錄文後寫者落失二字歟

已上寫本朱書

○第二卷

（外題）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

（內題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法普賢菩薩授寶冠繒綵金剛菩提心智灌頂品第七　卷二

（尾題）　瑜伽三摩地卷第二

（奧書）　享保十二丁未九月十日朱點　法原

○第三卷

（外題）

（內題）　佛說金剛頂瑜伽中畧出念誦法四方如來爲印毘盧遮那如來四波羅蜜智品第廿三　卷三

（尾題）　瑜伽三摩地卷第三

○第四卷

（外題）

（內題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法灌頂闍梨嚴治曼荼羅想五色粉品第三十　卷四

（尾題）　瑜伽三摩地卷第四

○第五卷

（外題）

（內題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法出生十六大供養陀羅尼品第卅八　卷五

（尾題）　瑜伽三摩地卷第五

（首書）校前唐院之正本經之前後題及經中文句全同之已上諸卷亦尒云々

此本陀羅尼句所闕字點本不然

瑜伽三摩地第五六

○第六卷（五六卷合本）

（内題）佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法鈎除罪障滅厄塵勞品第四十五　卷六

（尾題）瑜伽三摩地卷第六

（奥書）享保十三戊申正月十日以惟圭本書寫校合

城南安樂院沙門法原槃譚

城南安樂院の所在、法原槃譚についても現在不詳である。識者のご教示を仰ぎたい。また、第六卷奥書に、法原は、惟圭所持本より書寫した旨を記している。

(ロ)　日鑁本

本寫本は、六帖で帙に收められている。帙の上書には『六卷略出經』とあり、弘阿藏と左下に記されている。各卷にも弘阿藏と書されている。帙の内側の底部に、

理趣經存公記二卅左一云義訣具題云金剛頂經大瑜伽祕密心地法門義訣不空三平受介智口訣所記
卽六卷署出經尺也。唯有上卷中下末度所尺署出經現不流布惜哉云々

明治卅八年十月二日記之

の貼紙がある。

更に、帙の左側面に

明治卅六年六月念五日悉得之

本日御門主寂順大僧正猊下臺密奉受學候事

密乘沙門

瑜伽敎如和南（瑜伽敎如の朱印）

が記されており、天台の木下寂順大僧正から『略出經』の傳授を受けられたことを示している。

本書は一頁十行、一行十七字である。『義訣』による朱の書入れがあり、全體にわたって小見出しが付されている。內題の下に瑜伽敎如の朱角印が押され、瑜伽能化の手澤本であったことを偲ばせる。

○第一卷

（外題）　金剛頂署出經　一

（内題）　佛說金剛頂瑜伽中畧出念誦法序品第一

（尾題）　瑜伽三摩地經卷第一

（首書）　校前唐院之正本經之前後題及經中文句全同之　已下諸卷亦爾

師曰今此六卷本是慈覺大師將來本也卽是師々傳授之本耳

私云此本題初之佛說二字錄中無之而今檢慈覺大師將來之前唐院正本亦有佛說二字恐錄文後寫者落失二字歟

此中鑁云二婆含一合云二摩含一含有二菴音一昔是阿迦相通法也此類多レ之可二準而知一又怛咯　云二怛羅一紇哩入云二奚哩一引惡入云レ婀引等南天　不レ呼二入聲一故也

とあり、その上に入紙を貼付し、

今此六卷之經者慈覺大師之將來也然　彼師之敎王經疏之中於二所引一今此經稱二別本一四卷經號二舊經一今此中校レ之云レ舊准レ彼也又云今此經者未會四卷經治定歟依レ之安然和尙云治レ六爲レ四頗有二加減一云々又云以二四卷一號二舊經一者對二新說敎王經一三卷云レ尒也　復沒所釋本經者今此經也　但彼沒今經從レ始至二三十七尊中東方四親近薩王愛喜一釋レ之未レ釋二餘尊一惜哉

惟明和六歲次巳丑二月廿有二日於皇都千本上品蓮臺精舍校點之畢

瑜伽乘沙門　日鑁

の文がある。

○第二卷

（外題）　金剛頂畧出經　二

（内題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法普賢菩薩授寶冠繒綵金剛菩提心智灌頂品第七　卷二

（尾題）　瑜伽三摩地卷第二

○第三卷

（外題）　金剛頂畧出經　三

（内題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法四方如來爲印毘盧遮那如來四波羅蜜智品第二十三　卷三

（尾題）　瑜伽三摩地卷第三

○第四卷

（外題）　金剛頂畧出經　四

（内題）　佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法灌頂闍梨嚴治曼荼羅想五色綵品第三十　卷四

（尾題）　瑜伽三摩地卷第四

○第五卷

（外題）　金剛頂畧出經　五

（内題）佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法法出生十六大供養陁羅尼品第卅八　卷五

（尾題）瑜伽三摩地經卷第五

○第六卷

（外題）金剛頂畧出經　六

（内題）佛說金剛頂瑜伽中略出念誦法鉤除罪部滅厄塵勞品第四十五　卷六

（尾題）瑜伽三摩地卷第六

日鑁は、京都、上品蓮臺寺第二十四世であった。しかし、その事蹟の詳細は不明である。

智積院に藏される著書（寫本）に次のようなものがある。『四度聞書』一卷『薄諸尊法聞書』一卷『薄諸尊法後重聞書』一卷『祕鈔聞書』一卷『玄祕鈔聞書』一卷『祕藏金寶鈔聞書』一卷『傳法灌頂三卷式聞書』一卷『作法集聞書』一卷『三部祕經聞書』一卷『厚雙紙聞書』一卷『諸尊要鈔聞書』一卷（以上智積院藏）『廣傳尊法抄聞書』三卷等の聞書類が遺されている。奥書によれば寶曆七・八年（一七五七、八）頃に著されたものが多く、活躍した年代を偲ばせるものがある。明和九年（一七七二）十月二十四日寂、壽不明である。

初卷の首書によれば、乙寶寺藏の兩本は源を同じくしていると見られる。また後出の諸本も同樣である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com